

平成28年度 学校評価に係る学校関係者評価書

学校名 北海道おといねっぶ美術工芸高等学校

1 本年度の重点目標

2 本年度の経営方針

- (1) 基本的な生活習慣の確立と学習習慣を定着させる。
- (2) 生徒一人ひとりの個性を生かした造形教育を推進する。
- (3) 学校生活・寄宿舎生活をとおり、キャリア教育を推進し社会性を育成する。
- (4) 魅力ある教育活動の発展充実を目指し研修や実践を推進する。

- (1) 創作活動をとおりして学ぶ意欲を高め、可能性を引き出し、伸ばし、確かな学力を育成する。
- (2) 他を思い理解し、共に学び感動があふれる学校生活をとおりして、豊かな人間性を育成する。
- (3) 全道唯一の工芸科として、美術工芸の学びをとおりした質の高い教育活動を推進する。
- (4) 生徒・保護者・地域の信頼と期待に応える、地域に根差し開かれた学校づくりを推進する。

学校関係者評価委員会

学校評議員

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野・領域	評価項目	達成状況	取組の適切さ	改善の方策	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
学校経営	(1) 創造力の育成と人間力を高める教育を実践し、夢を語り感動があふれる学校づくりを推進できたか。	B	B	・教育活動の確実な引き継ぎを図る。	B	B
	(2) 魅力ある教育活動の取組（美術工芸教育、高大連携教育、国際理解教育、地域連携教育等）によって、教育の質的向上が図られたか。	B	B			
評価者の意見等	・Bという評価は”概ね充分”とのことだったら評価し過ぎである。 ・充実した活動が行われていると感じている。					
学習指導	(1) 生徒一人ひとりの実態に即した学習指導によって、基礎的基本的な学力の定着や向上が図られたか。	B	B	・工芸制作関係における教材研究の時間を充実させる。 ・図書教育の工夫・改善を図る。	B	A
	(2) 多様な生徒に対応する教材開発や指導方法・評価方法の工夫改善によって、学ぶ意欲を喚起して能力を伸ばせたか。	B	B			
	(3) 学習活動、特別活動、総合的な学習の時間の学びによって、これからの時代に求められる力が育っているか。	B	B			
	(4) 情報教育や図書教育の充実を図り、豊かな人間性を育成できたか。	B	C			
評価者の意見等	・不十分な点はまだあると思われるので、現状に流されないようにする。 ・ネットの時代ですが、紙媒体のような若い人には「古い」ものにも目を向けられるようにすべきである。					
生徒指導	(1) 教職員の共通理解と実践によって、基本的な生活習慣の定着が図られたか。	B	B	・共通理解と情報の共有化を図る。 ・生徒への確実な情報伝達を図る。	B	B
	(2) 地域の特色を生かした特別活動等の充実を図り、生徒の自主性や自律性を育成できたか。	B	B			
	(3) 教育相談活動を充実して多面的に生徒を理解し、いじめ等を含めた問題の早期発見・対応を実践できたか。	B	B			
評価者の意見等	・特に（2）での評価は厳しいものがあると思います。 ・もっとも難しい分野だと思います。結果的に締めつけにならないようにお願いします。					
進路指導	(1) 進路意識を高めながらキャリア発達の促進を目指し、自己実現に向けて努力する態度を育成できたか。	B	B	・生徒一人一人に対応したきめ細かい進路指導を推進する。	B	A
	(2) 自己理解を深め、個性や能力・適性に応じて進路目標を設定する力を育成できたか。	B	B			
	(3) 情報収集と情報発信を活発に行い個に応じた進路指導を充実して、進路実現を達成できたか。	B	B			
評価者の意見等	・進路指導には難しい点が多々あり苦労されている。 ・概ねよい方向にあると思います。					
健康安全指導	(1) 保健教育を充実させ、個々の生徒の状況を的確に把握し、生命の大切さを知り、主体的に健康安全に努める姿勢を育成できたか。	B	B	・生徒に怪我をさせない作業内容の改善を図る。 ・学校や寮の清掃美化を徹底する。	B	A
	(2) 校内外の清掃美化や施設の保全、環境教育をとおりして、快適な教育環境づくりを推進できたか。	B	B			
	(3) 教育活動全体をとおりして、安全教育を徹底させ、適切な生活行動ができるよう指導できたか。	B	C			
評価者の意見等	道具や機械を使う作業があり、さらに寮生活である。不断の尽力をお願いします。					

組織運営	(1) 日常的組織的な連携が緊密化し、協働体制を確立できたか。	B	C	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間の連絡体制を確立させる。 ・危機管理について、要項等による全体への指導統一や問題点の改善を行う。 	B	B
	(2) 学校課題の明確化・共有化を行い、前例踏襲に陥らずに工夫改善を図りながら各取組が進んだか。	B	B			
	(3) 危機管理意識が醸成されたか。	C	C			
評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・達成状況がBで、取組の適切さがCと言うところに問題がありそうである。 ・先生方の忙しさが気になります。村との連携も重要である。 					
研修	(1) 専門性と資質能力の向上のための研修活動を充実させ、授業改善や実践力が向上したか。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校外での情報研修を推進する。 ・校内研修後に授業改善や実践力を向上させる反省会議を推進する。 	B	A
	(2) 服務規律保持・倫理観について、意識は向上したか。	B	B			
	(3) 個々の教員のスキルは向上したか。	B	B			
評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・本当に校外での情報研修に成果は上がりましたか。 ・多忙に多忙が重ならないように願います。 					
保護者、地域住民等との連携	(1) 保護者や地域に対して本校の取り組みを十分に情報発信することができたか。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・早めの情報発信によるイメージ改革を推進する。 	B	B
	(2) 保護者や地域からの意見を聞き、積極的に学校改善に役立てることができたか。	B	B			
	(3) 保護者との連携を図りながら、充実したPTA活動が開かれたか。	B	B			
評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・難しい問題を含んでおり、おろそかに評価できないこと、改善の方策は曖昧である。 ・大変良くやっておられると感じます。 					

4 自己評価における特記事項（総合的な改善方針）

- ・村立である特性、強さ、自由さや生徒募集像を村と考えていく意見交換の場を設ける。
- ・教員間の情報共有と協働体制の確立を図る。
- ・木の手づくり展等のイベント時の効果的な宣伝の工夫を図る。
- ・観点別評価方法の研修を推進する。

5 学校関係者評価における特記事項

- ・決して甘く見て評価しているとは思いますが、もう少し厳しく見る目も必要ではないかと思えます。3年での一つの結果・成果を出さなければならぬと云った、厳しい面を苦慮しても評価を甘くしてはいけません。
- ・村民、村当局も高校には大きな期待を持っているようです。とはいえ主役は高校生です。学校・地域を通して成長していく存在で利用される存在ではありません。生徒を第一にむしろ地域を利用していくことも大事だと思います。この意味での「わがまま」はあっても良いでしょう。そして、それに応じる場も少なからずあると思えます。
- ・特色である寮生活から醸成される豊かな教育環境作りが行われている。進路指導部や工芸科の指導に手帳やワークシートを導入するなど工夫が見られ、効果が確認されている。
- ・改善の方策に「引き継ぎ」や「情報の共有」など教員間の連絡に関する記述が散見され、より前進的な目標設定が望まれる。